

8 「めざそう値」の達成度等の点検評価

「那覇市立図書館」運営の基本的な考え方の点検評価基準（別紙3）に基づき、「施策（事務事業）の進行管理チェックシート」（別紙4-（1）（2）参照）を活用して、「めざそう（目標）値」の達成度や評価の観点ごとの点数・コメント及び総合評価点数等を踏まえて、那覇市立図書館協議会委員で外部評価した。

点検評価事務事業（令和4年（2022年）度分）

課 題	施策名 (チェックシート)	事務事業名	指標名
I-1 利用者サービスの 充実	【1】 I-1-(1) 資料・情報提供サービス の充実	1. 資料・情報提供サービスの推進	①来館者数（来館率） ※1人当たりの年間来館数
			②レファレンス（調査相談） 件数
I-2 青少年に対するサ ービスの充実	【2】 I-2-(1) 中学生・高校生の読書活 動の充実	2. 中学生・高校生の読書 活動の推進	③中学生・高校生向けの企画 実施件数
I-3 障がい者サービス の充実	【3】 I-3-(1) 障がい者サービス用資料 の充実	3. 障がい者サービス用資 料の貸出の推進	④デージー図書貸出数
			⑤大活字本貸出数
			⑥朗読CD貸出数
II-1 多種多様な市民ニ ーズに対応できる 人材の採用・育成	【4】 II-1-(1) 図書館職員研修の充実	4. 図書館職員研修の実施 及び各種研修への参加	⑦研修会への参加人数（参加 件数）
	【5】 II-1-(2) 図書館職員体制の充実	5. 図書館職員体制強化の 推進	⑧職員の司書有資格者数
VI-1 読書推進のための 学習機会の充実	【6】 VI-1(2) 職場体験等（小中高）の 受入	8. 職場体験等（小中高） の受入の推進	⑨職場体験等（小中高）の受 入件数

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【Ⅰ】 指標①②

点検評価の対象年度		令和 4 年度			別紙 4-(Ⅰ)			
課 題		Ⅰ-Ⅰ 利用者サービスの充実			主管 部課	教育委員会		
施 策 名		Ⅰ-Ⅰ-(Ⅰ) 資料・情報提供サービスの充実				生涯学習部 中央図書館		
事務事業名		Ⅰ. 資料・情報提供サービスの推進						
施策 (事務事業)	施策の概要等	公共図書館における利用者サービスを充実させるため、図書館奉仕の基本的なサービスである資料・情報提供サービスを推進する。 関係法令等 ○図書館法 〈第3条第1項第1号〉 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。))を含む。以下「図書館資料」という。)を収集し、一般公衆の利用に供すること。 〈第3条第1項第3号〉 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)3(図書館サービス) (一)貸出サービス等 市町村立図書館は、貸出サービスの充実を図るとともに、予約制度や複写サービス等の運用により利用者の多様な資料要求に的確に応えるよう努めるものとする。 (二)情報サービス ① 市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。 ② 市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実に努めるものとする。 ③ 市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする。						
実際の成果・効果等		令和4年3月からスタートした電子図書館では、来館しなくても読書が楽しめる環境を整えた。電子図書館にアクセスすることは来館と同意義と捉えられることから、令和4年度から電子図書館アクセス数も加えて来館者数とした。電子図書館ログイン数を加えてもめざそう値未達成となった。 来館者の読書意欲が沸くよう、時事的な切り口でのテーマを織り交ぜながら毎月全館で特集展示を行ったりしたが、サイバー攻撃による利用制限等もあり十分な成果が得られなかった。電子図書館ログイン数についてはある程度の成果があったものとする。						
事業に要した経費		令和4年度の図書館に関する決算額(正規職員の人件費を除く)…………… 164,141,638 円 ・うち図書資料費…………… 27,616,274 円 【新聞・雑誌等】…………… 6,063,154 円 【一般・児童・郷土・視聴覚資料】…………… 21,553,120 円 うち図書館コンピュータシステム経費…………… 16,448,176 円 うち電子図書館サービス経費…………… 2,923,581 円						
・実績値 指標名・目標値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値	指標名	目標値	実績値	前年度 実績値
	① 来館者数 (うち電子図書館) (来館率)	478,300 (1.50)	317,265 (29,913) (0.99)	213,536 (0.67)	②レファレンス (調査相談)件数	1,700	591	589

※来館率：市民一人当たり来館した回数

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	3	B	●サイバー攻撃による利用制限等もあり十分な成果が得られなかった。電子図書館ログイン数についてはある程度の成果があったものとする。 ●レファレンスについては、主に利用者の来館時に受けることが多いため来館者が少なかったことも目標値未達成の要因と考えられる。
	今後の方向性	4		●電子図書館利用の促進に加え、図書館を利用したことがない方々へのアプローチに力を入れるため、関係機関に出向いて図書館の利用 PR やレファレンスサービスの周知広報を行う。 ●R5 年度はレファレンスサービスの取組の一つとして、中央図書館と若狭図書館の 2 館で夏休み全期間を通して子どもたちの自由研究等の宿題サポート企画を実施する。

別紙 4-(2)

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	3	B	・達成度は「3」とする。コロナ開けとはいえ、しばらく影響がある。今年の夏休みの取組を重視しているのは評価したい。 ・サイバー攻撃の中、サービスを提供したことは評価したい。
	今後の方向性	4		・さらに電子図書館の活用にがんばっていただきたい。 ・電子書籍の貸出に期待したい。 ・レファレンスについては、現在の取り組みでは目標達成できないのではないか。取り組みの改善又は、目標値の下方修正を検討してはどうか。 ・施策に対して、指標が利用数だけなのは残念である。アプローチを評価できる仕組みをつくってみてはどうか。 ・去年までコロナの影響があったので、今年度からはもっと貸出が伸びることを期待する。 ・いろいろなサービスを提供しているので、もっとほかのサービスも見れるように指標を増やしてはどうか。

｜ - 37 - 施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【2】 指標③

点検評価の対象年度		令和 4 年度		別紙 4-(1)	
課 題		I-2 青少年に対するサービスの充実		主管 部課	教育委員会
施 策 名		I-2-(1) 中学生・高校生の読書活動の充実			生涯学習部 中央図書館
事務事業名		2. 中学生・高校生の読書活動の推進			
施策 (事務事業)	施策の概要等	スマートフォンやインターネットの普及に伴い、中学生・高校生のヤングアダルト層の公共図書館離れが深刻になりつつあるなかで、活字に触れる機会を増やすとともに本を読む楽しさを再確認してもらえるよう、中学生・高校生の読書活動の充実を図る。			
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成 24 年文部科学省告示第 172 号) 第二(公立図書館)ー(市町村立図書館)3(図書館サービス) (四)利用者に対応したサービス ア(児童・青少年に対するサービス) 児童・青少年用図書の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展示会の実施、学校等の教育施設等との連携			
実際の成果・効果等		夏休みの中学生・高校生向けお仕事講座や近隣中学校とのコラボ企画で子どもたちが書いたおすすめ本の POP カードの掲示と紹介本の展示・貸出、首里東高校へ職員が出向いてキャリア教育を実施する等、様々な機会をとらえて中学生・高校生向けの企画を実施した。 ふだんなかなか公共図書館に足を運ぶことが少ない若い世代をターゲットにした取り組みを実施することで、若い世代が公共図書館に興味・関心を持つ機会を提供できた。大幅な貸出 UP にはつながらないが、若い世代を少しでも来館につなげることができ、図書館利用のきっかけとなった。			
事業に要した経費		図書館運営事業の行事用消耗品費			
値・実績値 指標名・目標	指標名		目標値	実績値	前年度実績値
	③中学生・高校生向けの企画実施件数		5	8	4

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	5	A	●実績値が目標値に達し、前年度実績も上回った。 ●7館中5館で中学生・高校生向けの企画を実施することができた。 ●夏休みのお仕事講座、近隣の中学校とのコラボ企画、高校と連携した取組等多彩な取組を実施することができた。
	今後の方向性	4		●継続して中学生・高校生向けの企画を行い、若い世代の図書館利用の促進を図る。 ●なはし電子図書館には、中学生・高校生向けの電子書籍等も揃えているので、電子図書館のさらなる周知に取り組み、中高生の利用につなげる。

別紙 4-(2)

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	5	A	・目標値、実績値から基準に基づき「5」の評価とした。 ・YA 世代に対して電子図書館からのアプローチは良い。周知に課題がある。 ・中高生の図書館利用はこの図書館も模索している。 ・指標としては、中高生、年代別の利用状況がわかるデータが良いと思う。 ・公共図書館と近隣の中学校とのコラボなど評価できる。学校からも、公共図書館に寄って、もう少し広げていけたらいい。
	今後の方向性	5		・近隣の中学校とのコラボや中高生への電子図書館のアプローチなどいい取組と思う。 ・貸出の分析、中高生がどれぐらい図書館に登録して、どれぐらい貸出サービスを利用しているかなど統計が取れないか。 ・継続して、地道な取り組みや、周知活動を行ってほしい。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【3】 指標④⑤⑥

点検評価の対象年度		令和4年度			別紙 4-(1)			
課 題		I-3 障がい者サービスの充実			主管 部課	教育委員会		
施 策 名		I-3-(1) 障がい者サービス用資料の充実				生涯学習部 中央図書館		
事務事業名		3. 障がい者サービス用資料の貸出の推進						
施策 (事務事業)	施策の概要等	障がいのある方等へのサービスを充実させるため、デイジー図書（文字・音声・画像を再生できる電子図書）や大活字本・朗読CD等資料の充実を図る。 期待される効果として ①障がいのある方々に読書の楽しみを広げていくことができる。 ②視覚障がいのある方のみならず、学習障がいや知的障がいのある方等にも活用することができる。 ③文化・情報面のバリアフリー化を推進することができる。						
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)ー(市町村立図書館)3(図書館サービス) (四)利用者に対応したサービス ウ(障害者に対するサービス) 点字資料、大活字本、録音資料、手話や字幕入りの映像資料等の整備・提供、手話・筆談等によるコミュニケーションの確保、図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービスの実施						
実際の成果・効果等		◆デイジー図書の周知取組 ○出向いてデイジー図書を利用方法説明 ・市内小中学校(特別支援学級):小学校7校、中学校2校 ・こども発達支援センター ・沖縄県南部療育センター ○利用方法等の説明チラシ配布 ・学校図書館司書研修会 ・特別支援学級担当者研修会 ◆デイジー図書や大活字本等障がい者サービスの周知取組 ・市民の友へ掲載(R5年1月号) ・特集展示の実施(7館中3館) デイジー図書貸出数:48点 大活字本貸出数:1,621冊 朗読CD貸出数:230点						
事業に要した経費		図書資料費.....27,616,274円 うち(デイジー図書).....10,000円(受入4点、購入20点) うち(朗読CD).....48,400円(受入1点、購入16点) うち(大活字本).....159,672円(購入81冊)						
指標名・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	④デイジー図書貸出数	24	48	35	⑥朗読CD貸出数	200	230	397
	⑤大活字本貸出数	1,500	1,621	1,471				

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	5	A	●3つの指標すべてにおいて目標値を達成した。システム障害で10月中旬頃から約3カ月間、一回の貸出点数を「3冊」に制限した。朗読CDや大活字本の貸出数については通常であればもう少し伸ばせたと考える。
	今後の方向性	4		●学校の特別支援学級等へ出向いての周知活動により利用が伸びた。利用した学校から、生徒が楽しんで見ていたとの報告があり、電子黒板を使ってデジ図書を視聴することは有効だと考える。 ●今年度は支援学級に通う児童・生徒の保護者へ案内を行い、自宅でも利用してもらえるよう周知を行う。さらに児童デイサービスの保護者へも周知を広げる。 ●図書館に来館する方に対しても周知の機会を作るため、デジ図書や朗読CD、大活字本等の展示・特集を行う。 【事務局からの提案】 ・目標値について…めざそう値を達成しているので、2023(R5)年度のめざそう値指を変更したい。 ○デジ図書(26⇒50本)、○大活字本(1,500⇒1,630冊)、○朗読CD(200⇒400本)

別紙 4-(2)

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	5	A	・R5の目標値修正は評価する。特別支援学級などニーズは高いのでさらに推進していただきたい。 ・なかなか対象者が見えないので、もう少し社協や自治体内の福祉部門と連携して進めたらよい。 ・システム障害を受けても、十分な成果が出ている。児童デイに出向くのもよい。できれば専門医療機関の窓口や教員(養護教諭等)研修に組み込めたら良いと思う。
	今後の方向性	5		・目標値の修正については、協議会で承認する。 ・対象者を把握するため、社協や市長事務局の福祉部門との連携が必要である。また、専門医療機関や養護教諭などにも周知してはどうだろうか。 ・課題として対象者の何割ぐらいが図書館の障害者サービスを利用しているのかデータが取れるとよい。 ・本が読みづらい子はたくさんいて、特別支援学級以外にもいる。デジ図書等が身近にあれば、障がいの有無にかかわらず、いろんな子が手に取って広がっていくような工夫ができるよう期待する。次のステップにつながるこの取り組みが広がってほしい。特別支援クラスから、普通クラスの先生方にも周知を広げる工夫を期待する。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【4】 指標⑦

点検評価の対象年度		令和4年度		別紙 4-(1)	
課 題		Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成		主管 部課	教育委員会
施 策 名		Ⅱ-1-(1) 図書館職員研修の充実			生涯学習部 中央図書館
事務事業名		4. 図書館職員研修の実施及び各種研修への参加			
施策 (事務事業)	施策の概要等	司書や一般事務職員に対する研修の企画実施及び他団体主催研修への参加促進等、職員への研修等を充実させ、職員の図書館業務の専門的職務遂行能力を高め多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。			
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)4(職員) (二)職員の研修 ①市町村立図書館は、司書及び司書補その他の職員の資質・能力の向上を図るため、情報化・国際化の進展等に留意しつつ、これらの職員に対する継続的・計画的な研修の実施等に努めるものとする。 ②市町村教育委員会は、市町村立図書館の館長その他の職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修機会の拡充に努めるとともに、文部科学大臣及び都道府県教育委員会等が主催する研修その他必要な研修にこれら職員を参加させるよう努めるものとする。			
実際の成果・効果等		コロナ禍でWeb配信(オンライン・オンデマンド)の研修が主流となり、国立国会図書館研修や全国公共図書館研究会などの研修も、Web配信になり複数名受講することができた。 他団体主催のWEB研修にも各自積極的に参加し、図書館職員としての資質・能力を向上させた。			
事業に要した経費		WEB研修受講等のため要した経費なし。			
指標名・目標値・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値	
	⑦研修会への参加人数(参加件数)	90(12)	83(17)	76(17)	

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	4	A	●R4 年度は参加人数は目標値に満たなかったが前年度を上回った。参加件数は目標値に達した。
	今後の方向性	5		●R5 年度は、職員の研修機会の確保を市立図書館の組織目標として掲げ、人事面談等を通して、研修の必要性を伝えていく。

別紙 4-(2)

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	4	B	・達成度は「4」だが、内部評価の説明を聞くと、オンライン研修を活用すればもう少し増えそうだが、まだまだ工夫ができそうだと思う。 ・職員 1～2 回程度研修に参加すれば、目標達成できそうだが、職員一人あたりの研修が、年間もっとあってもよさそう。人材育成の面でも研修期待する。
	今後の方向性	4		・オンライン研修が充実している中、参加者が少ないのが気になる。(時間に関係なく、研修を受けられるので、目標値を超えられそう) オンラインを活用して、職場内で研修が受けられる工夫をしてほしい。 ・那覇市の図書館は県内で大きな図書館なので、那覇市から毎年出てもいい研修がある。体系的な長期研修などが県外で実施されているので、中堅司書職員育成のため、旅費等の予算措置が必要。 ・職員一人あたりの年間研修参加回数で設定し、キャリアパスも含めて研修の充実をおこなう等、人材育成を期待する。 ・研修参加への予算をもっと確保できたらいい。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【5】 指標⑧

点検評価の対象年度	令和4年度	別紙 4-(1)		
課 題	Ⅱ-1 多種多様な市民ニーズに対応できる人材の採用・育成	主管 部課	教育委員会	
施 策 名	Ⅱ-1-(2) 図書館職員体制の充実		生涯学習部 中央図書館	
事務事業名	5. 図書館職員体制強化の推進			
施策（事務事業）	施策の概要等	専門職である司書を配置し、管理運営及び職員体制の充実を図ることで、多種多様な市民ニーズに対応できる人材を育成する。		
		関係法令等 ○図書館法 第四条 図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。 2 司書は、図書館の専門的事務に従事する。 3 司書補は、司書の職務を助ける。 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二(公立図書館)一(市町村立図書館)4(職員) (一)職員の配置 ②市町村教育委員会は、市町村立図書館が専門的なサービスを実施するために必要な数の司書及び司書補を確保するよう、その積極的な採用及び処遇改善に努めるとともに、これら職員の職務の重要性にかんがみ、その資質・能力の向上を図る観点から、第一の四の②に規定する関係機関等との計画的な人事交流(複数の市町村又は都道府県の機関等との広域的な人事交流を含む。)に努めるものとする。		
実際の成果・効果等		レファレンスサービスの対応やサイバー攻撃後のデータ整理など、司書の専門性を発揮した。		
事業に要した経費		特になし		
指標名・目標値・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	⑧職員の司書有資格者数	43	45	45

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	5	A	●実績値が目標に達した。
	今後の 方向性	4		●司書の情報検索能力をもっと活かせるように、レファレンスサービスの周知やパスファインダーの作成など、その専門性を市民や行政にアピールしていく。

別紙 4-(2)

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	5	A	・実績値が目標に達しているので、「5」の評価だが、目標値「43」の指標の設定がわかりづらい。那覇市の職員数としては、妥当な数字なのか。 ・司書職員の採用はあるのか。図書館に精通した職員の充実のため、採用面での配慮を要望する。
	今後の方向性	4		・司書は図書館の専門職として必要なので、採用を増やしたり人事異動等での配慮を要望する。 ・司書の会計年度と一般職の会計任用職員の給与に差をつけるなど、会計年度任用職員もその専門性を評価した処遇になるよう改善を望む。 ・職員定数「52」が適正なら、そのうち司書が何パーセントという目標に変えた方がわかりやすい（課題）。指標は、人数より定数に対する割合に変更してはどうか。

施策（事務事業）の進捗管理チェックシート【6】 指標⑨

点検評価の対象年度	令和4年度	別紙 4-(1)		
課 題	Ⅳ-1 読書推進のための学習機会の充実	主管 部課	教育委員会	
施 策 名	Ⅳ-1-(2) 職場体験等（小中高）の受入の推進		生涯学習部 中央図書館	
事務事業名	8. 職場体験等（小中高）の受入件数			
施策 （事務事業）	施策の概要等	公共図書館の果たす役割や業務内容を広く理解してもらうため、また子どもの読書活動を継続的に推進するため職場体験の受入を実施する。		
		関係法令等 ○図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号) 第二（公立図書館）一（市町村立図書館）3（図書館サービス） （四）利用者に対応したサービス ア（児童・青少年に対するサービス） 児童・青少年用図書の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展示会の実施、学校等の教育施設等との連携 （五）多様な学習機会の提供 ① 市町村立図書館は、利用者及び住民の自主的・自発的な学習活動を支援するため、講座、相談会、資料展示会等を主催し、又は関係行政機関、学校、他の社会教育施設、民間の関係団体等と共催して多様な学習機会の提供に努めるとともに、学習活動のための施設・設備の供用、資料の提供等を通じ、その活動環境の整備に努めるものとする。		
実際の成果・効果等		職場体験・インターンシップは高校、大学及び就労支援施設から計23件、施設見学は近隣小学校やこども園からの依頼を計10件受け入れた。合計33件。 職場体験・インターンシップで受け入れた学生の多くが、図書館の仕事がこんなに多くあることに驚いており、実際の体験をすることで職業意識が高まったと喜んでいた。 施設見学では主に小学2年生が来館するが、館内の見学、市立図書館の本の冊数や資料の種類の多さに感動している様子が伝わってくる。 図書館について知ってもらい、読書推進の取組としてインターンシップ、施設見学受け入れは大切な業務であると感じている。子どもたちや学生が公共図書館について学ぶ機会として今後も継続して取組んでいく。		
事業に要した経費		事業に要した経費なし		
指標名・目標値・実績値	指標名	目標値	実績値	前年度実績値
	⑨職場体験等（小中高）の受入件数	60	33	11

点検評価 (内部)	評価の観点	評価	総合 評価	内部評価コメント
	達成度	4	B	●目標値に達しなかったが前年度実績を上回った。 ●新型コロナウイルス感染症の影響で、職場体験を見送った学校があった。
	今後の方向性	4		●職場体験等を積極的に受け入れし、児童生徒や学生に公共図書館の役割や業務内容を広く理解してもらう機会を提供し、図書館に興味・関心を持ってもらい図書館利用につなげていきたい。

別紙 4-(2)

点検評価 (外部)	評価の観点	評価	総合 評価	外部評価コメント
	達成度	4	B	・コロナの影響で学校側が消極的になった部分もあるが、今後は積極的に受け入れてほしい。 ・実績数は多いが、各館毎にみると少ない。特に繁多川はインターンシップの受入れが多い。受入れは職員の負担になるが、委託職員のがんばりに評価したい。 ・(課題) ツアーガイド(1日体験)とか取り組むのはどうか。 ・小中学生の受け入れとなっているが、大学生のカウントが入っているのが気になる、整理が必要。 ・目標値に達していないことについて、コロナ禍の影響もありやむを得ない。 ・学校の施設見学数がもっと増えたらいい。将来の利用者につながる。
	今後の方向性	4		・職場体験が読書の推進につながる取り組みかどうかは検証が必要。 ・館ごと見ると偏りがあるので、受入れの少ない館は頑張ってもらいたい。 ・受入れにあたって職員の負担もある。実態を反映させるために『受入人数×受入時間』などで評価してはどうか。(どれぐらい時間を費やしたか、が見える指標にしては(課題)) ・将来の利用者につながる可能性があるので、職場体験の受入は継続してほしい。職場見学の受け入れにあたっては、利用者カードを作成するなど次につながるような工夫があるとよい。

令和4年（2022年）度「めざそう値」の達成度等の点検評価のまとめ

『那覇市立図書館』運営の基本的な考え方」の施策の進捗管理として、下記のように「指標」と「めざそう値」の設定、評価点検を行ってきた。

2010年度～	指標・めざそう値の達成度等の点検評価を毎年度実施
2015年度	2015年度から2019年度までの指標とめざそう値を新たに設定。
2019年度	2020年度から2024年度までの指標とめざそう値を設定。
2020・2021年度	コロナ禍のため2019・2020年度の外部評価が実施できず内部評価のみ実施。
2022年度	2022年度の「1 資料・情報提供サービスの充実 ①来館者数」に、電子図書館アクセス数を加えて来館者数とした。 2023年度の「3 障がい者サービス用資料の充実」におけるめざそう値は達成したため変更する。

【評価の概要】

令和４年（2022年）度「めざそう値」の達成度等の点検評価のまとめ				内部 評価	外部 評価	
指標名		めざそう値	実績値			達成率
1	資料・情報提供サービスの充実				B	B
	①来館者数（来館率）	478,300（1.50）	317,265（0.99）	0.66（0.66）		
	②レファレンス（調査相談）件数	1,700	591	0.35		
2	中学生・高校生の読書活動の充実				A	A
	③中学生・高校生向けの企画実施件数	5	8	1.6		
3	障がい者サービス用資料の充実				A	A
	④デイジー図書貸出数	24	48	2		
	⑤大活字本貸出数	1,500	1,621	1.08		
	⑥朗読CD貸出数	200	230	1.15		
4	図書館職員研修の充実				A	B
	⑦研修会への参加人数（参加件数）	90（12）	83（17）	0.93（1.42）		
5	図書館職員体制の充実				A	A
	⑧職員の司書有資格者数	43	45	1.05		
6	職場体験等（小中高）の受入の推進				B	B
	⑨職場体験等（小中高）の受入件数	60	33	0.55		

令和4年（2022年）度は、サイバー攻撃の影響で貸出制限等もあり、めざそう値を達成した指標は5つ、未達成は4つという結果になった。また、上記の指標・達成度や今後の方向性について、総合評価を実施した。内部評価はA評価が4項目、B評価が2項目、外部評価はA評価が3項目、B評価が3項目、内部評価及び外部評価ともに、C・D・E評価は0項目であった。

【評価の総括】

総合評価において、「B」評価になった「Ⅰ-Ⅰ-(1)資料・情報提供サービスの充実」及び「Ⅳ-Ⅰ-(2)職場体験等（小中高）の受入の推進」については、より重点的な取り組みが求められる。また、「指標名②「レファレンス（調査相談）」の件数は、目標値と実績値が大きく乖離しており、外部評価において見直しを示唆されたが、第5次那覇市総合計画との整合性から見直しをしないこととした。

指標以外にも、各委員からの意見として、次のことが挙げられた。

- ・人材育成のため、予算を確保し図書館関連の全国的な研修参加もできるように検討してほしい。あわせて、オンラインの活用による職場内での研修の充実も図っていく必要がある。

- ・子ども達の育成のため、「図書館で調べる学習コンクール」にエントリーしてはどうか。図書館としては、引用の書き方参考文献の表記の仕方を指導し、コンクールに出展することで子ども達の励みになると思う。

- ・また研修や取組を通じて、どんな成果や変化が見れる意識、評価が必要だと思う。

- ・那覇市の図書館として、県立や学校図書館とのすみわけ（ターゲット）はあるのか。那覇市独自でここに力を入れているというのがあるといい→評価しやすくなる。

- ・評価結果に関わらず、指標ごとの課題については、今後も改善に向けて取り組む必要がある。

- ・指標を元に評価しているが、企画・イベント等の取組は手厚いが、それを評価できる指標がないのもったいない。いろいろなサービスを提供しているので、もっとほかのサービスも評価できるように指標を増やしてはどうか。